

1. 評価結果(概要表)

作成日 平成20年 2月20日

【評価実施概要】

事業所番号	041500322		
法人名	株式会社イングループ		
事業所名	グループホームあつたかいごふるかわ		
所在地 (電話番号)	宮城県大崎市古川駅前大通6丁目3番8号 (電話)022-23-2888		
評価機関名	社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会		
所在地	仙台市青葉区五橋2丁目12番号		
訪問調査日	平成20年2月20日	評価確定日	

【情報提供票より】(20年2月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人, 非常勤 0人, 常勤換算 14人	

(2)建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築/改築
建物構造	鉄骨造り	
	1階建ての	階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(100,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	又は1日当たり 1,500円		

(4)利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	18 人	男性	3 人	女性	15 人
要介護1	3 人	要介護2	4 人		
要介護3	9 人	要介護4	2 人		
要介護5	0 人	要支援2	0 人		
年齢	平均 81 歳	最低 65 歳	最高 98 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人永仁会病院、ア歯科有馬診療所
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR古川駅に近く、商店街に位置するホームである。ホーム内は、家庭的な雰囲気の利用者と職員が笑顔で接している。また、家族との関係も良好で、面会も多く意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。また、地域とホームの各行事に相互に参加し、交流を深めている。家庭菜園や園芸にも力を入れ、利用者と職員がともに汗を流している。総じて、とても居心地の良いホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 「運営管理の啓発」、「活動意欲を触発する物品の用意」、「個別具体的な介護計画」、「個別の記録」、「入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア」、「鍵をかけない工夫」、「食事を楽しむことのできる支援」、「入居者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援」、「身体機能の維持」、「服薬の支援」、「緊急時の手当」、「職員の意見の反映」、「ストレスの解消策の実施」、「緊急時の対応の周知・訓練」、「地域の人達の交流の促進」の各要改善項目について、それぞれ計画を立てて取り組み、改善している。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4) ① 評価の意義を職員全員で確認し、各ユニット毎に自己評価を実施し評価書を作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6) 平成19年1月より、2ヶ月に1回開催している。ホームの取り組みを報告し、委員と意見交換している。各種ホーム行事への地域の方の参加や、ボランティア募集について、意見や協力を得ている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホーム内に意見箱を設置したり、家族の面会時の声がけを徹底し、意見等の把握に努めている。また、運営推進会議や家族会の開催により、意見交換の場としている。把握した意見等については、職員会議等で検討し改善に向け取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域行事へ積極的に参加している。また、ホームの各種行事への参加も地域の方々に声がけし、交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい項目 取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくり上げている	運営理念は、地域密着型サービスの意義を理解し、地域と家庭との結びつきを謳ったホーム独自のものとなっている。また、職員全員で見直しも行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取組 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、毎朝のミーティング時に理念に触れ、具体的なケアの方策を示し、職員全員で確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域との付き合い 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域行事へ積極的に参加している。また、ホーム行事へも地域住民を招待し、相互に行き来している。また、慰問等の地域ボランティアを毎月受け入れ、高校生のボランティアも近comingの予定となっている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が外部評価の意義を職員に説明し、各ユニット毎に職員全員で自己評価を行った。前回の評価結果については、計画を作成し、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催する運営推進会議では、ホームでの取り組みを報告するとともに、メンバーから意見や助言を受け、双方向の会議となっているが、評価結果については報告していない。	○	運営推進会議では、評価結果や把握した課題について報告し、そこでの意見をサービス向上へ活かしていくことが大切である。

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市直営の地域包括支援センターとは、日常的な関係作りができています。また、市担当課にもホーム行事への参加を依頼し、交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時には、必ず利用者の状況を伝えている。また、担当職員からのお便りと写真入りのホーム便りを毎月送付し、利用者の生活の様子を報告している。金銭管理については、「金銭管理規約」を定め、出納状況について家族の面会時に確認してもらう他、毎月文書で知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見等を言いやすい雰囲気づくりに努めている。また、運営推進会議の他、家族会を設置し、家族からの意見・要望を聴取する場としている。把握した意見等は、職員会議で話し合い、反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者がなじみの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を大切に、事業所間の異動は行っていない。ユニット間の異動は、やむを得ない場合に必要最小限のものとしている。日頃からユニット間の交流に配慮し、各職員と馴染みの関係ができるようにしている。新規職員を配置する場合には、1ヶ月程度先輩職員とともに活動することとし、利用者へのダメージを少なくなるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取組 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の時に、勉強会を行っている。また、外部研修へは交代で参加し、研修内容を他職員へ伝達している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	宮城県認知症グループホーム連絡協議会に加入し、職員対象の交換研修や管理者対象の相互研修等に積極的に参加し、交流を深めている。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○なじみながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が必ず本人と面接し、ホームの見学を勧めている。見学の際には、利用者と無理なく交流ができるよう支援している。また、利用開始は、利用者・家族の希望に沿って対応している。		
13	27	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支え合う関係を築いている	一緒に炊事をしながら、料理や昔ながらのことを教えてもらったり、散歩の途中で地域の色々な事を聞いたり、利用者から学ぶことが多い。職員は、利用者へ感謝の気持ちを持って接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センターのアセスメント方式を用い、本人の思いや暮らし方の希望の把握に努めている。日頃の支援の中で、言葉や表情からニーズを確認している。また、意思疎通の困難な方については、家族から話を聞いて情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を確認し、毎月の職員会議で検討している。また、アセスメントを行い個別・具体的な介護計画を作成している。介護計画は家族に説明を行い、同意を得て渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1度は、介護計画についての利用者や家族の意向確認を行い、最低3ヶ月毎に見直しを行っている。また、状態の変化が認められるときには、随時の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人及び家族の求めに応じて、通院や外出泊等の必要な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に応じた医療機関への受診を支援している。医療機関との連携に努め、家族への報告もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期の在り方について、できるだけ早い段階から本人や家族等及びかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する対応方針を定め、家族に説明し同意書を作成している。また、医師等との話し合いも行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者へのさりげないケアを実践し、尊厳の保持に配慮している。個人情報の取り扱いにも、問題となるような行動は見受けられなかったが、職員が共有する具体的な取り決めの内容が確認できない。	○	利用者のプライバシー保護を確保する為には、職員全員が個人情報保護法の理解に努め、秘密保持を徹底するよう、具体的な取り決めが必要である。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者の生活のリズムに配慮し、本人のペースで生活できるように支援している。また、本人の希望の把握に努めている。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望のメニューを定期的に献立に取り入れている。利用者の力量に応じて、野菜切り、盛り付け、配膳、下膳、食器洗いや食器拭き等、職員と一緒にやっている。また、職員は利用者と同じテーブルと一緒に食事を摂りながら、さりげない支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低の入浴回数を確保するため、基本の曜日・時間を設定しているが、本人の希望に柔軟に対応している。毎日及び夜間の入浴も可能である。入浴を拒む利用者へは、本人とコミュニケーションのとれている職員が対応したり、声かけの方法やタイミングを工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	運営推進会議での挨拶やラジオ体操、絵画、書道等利用者がその力量に応じて、楽しみや役割感が得られるよう場面づくりの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出掛けられるよう支援している	ドライブや買い物等全体への外出支援は行われているが、退職者があり職員体制が安定しないことから、一人ひとりの希望に応じた支援まで行っていない。	○	外出はその人らしく暮らし続けるための支援として、重要なものであるから、ホームの都合を優先することなく、利用者本人の意向に沿った支援が大切である。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及びすべての職員が、居室や日中玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。外出傾向のある方を把握し、見守りに対応している。また、近隣の方にも、連絡等の協力をお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろから地域の人々の協力を得られるよう働き掛けている	マニュアルを作成し、夜間想定を含めた避難訓練を年2回行っている。地域の協力体制については、運営推進会議や町内会で要請しているが、地域住民の参加・協力を得た訓練となっていない。また、非常用食料・備品等の準備がない。	○	災害発生時の避難誘導では、職員だけの誘導では限界があることから、訓練時に地域住民の参加協力が得られよう取り組みが求められる。また、有事に備えての食料・飲料水等の備蓄も必要である。

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取量を毎日記録し、体重測定も毎週行っている。利用者の嗜好を把握し、献立に取り入れているが、栄養士等からの指導・助言を受けていない。	○	カロリーの過不足や栄養の偏りがないように、定期的に栄養士等から専門的なアドバイスを受ける必要がある。
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、音・光・換気等に配慮され、適切なものとなっている。また、壁面への飾り付けや物品の配置については生活感や季節感のあるさりげない装飾となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの筆筒やコタツ、仏壇等が持ち込まれ、個性的な居心地の良い居室となっている。		